

R1 学校評価・教職員自己評価結果と考察・来年度へ向けて 回答者数 教職員(33名)、生徒(343名)、保護者(326名)

1 評価の方法
 「A-そう思う」を4点、「B-ややそう思う」を3点、「C-あまりそう思わない」を2点、「D-そう思わない」を1点、「E-わからない」を0点とし、その合計を回答者で割り、平均点として示した。なお、「E-わからない」については、職種によって判断できないが生じるので、この項を設定した。「E」の回答数は、回答者数から除いた。回答者数33名
 なお、生徒と保護者の数値はそれぞれのアンケートと関連した部分について、A(そう思う)とC(あまりそう思わない)とD(全くそう思わない)の数値を足したもので%で示している。(上段がA, 下段はC+D, 数値は%)

2 総括
 4段階評価で平均点が3点以上の場合、基本的には良好な評価を得られたと判断すると、本年度はおおむね良好であったと言えます。ただし、3点前後の項目について、また、5段階評価(通信表のイメージ)に換算すると、4以上になっていない項目は、意識的に取り組むことが必要であり、更なる改善が必要と思われるので、教職員の共通理解を一層図り来年度の向上に資したい。また、少数意見も大事にし、より良い学校運営がなされるよう改善を図っていききたい。

項目	No.	GD	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	参加人数	4段階評価	5段階評価	生徒	保護者	考察と来年度へ向けて
1 学校教育目標に関すること	①教育目標	1	G	学校教育目標や重点目標が、社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものにしている。	26	7	0	0	0	33		4.7		考察・課題 ・肯定的な評価が多かった。昨年度の反省を基に、生徒の実態に即してグランドデザインをより具体的にし、それを意識しながら教育活動に取り組むことができた。校内研とも関連付けながら、今後も目標達成のための教育活動を行なっていきたい。
		2	G	職員の共通理解のもと、学校教育目標などを踏まえた教育計画が立てられ、それを達成するための教育活動を行っている。	21	10	2	0	0	33				
2 学校経営に関すること	②教育課程管理	3	D-1	各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されている。	15	15	3	0	0	33		4.2		考察・課題 ・昨年より評価が大幅に上がっている。特に道徳は、今年度から教科化されたことにより、授業時数を確保しながら校内研でも授業や評価について研究を行ってきた。全体的に、授業数は行事等も考慮しながら確保することができたが、曜日や教科によるカット時数の偏りを感じている職員がいる。また、そのことにより学期の見通しが持ちにくかったという指摘もある。
		4	D-1	道徳・学活・総合の授業時数が確保され、それぞれの目標・指導計画に応じて実施している。	17	15	1	0	0	33				
2 学校経営に関すること	③学校運営組織	5	F-6	学校運営にふさわしい校務分掌(組織や個人)がなされ、それぞれ適切に機能している。	11	16	5	0	1	33		3.9		考察・課題 ・おおむね肯定的な評価であるが、昨年度より評価の数値がやや低下している。校務分掌による仕事量の負担に、やや偏りがみられるという意見があった。職員全体の協力体制で校務を遂行できるような報告・連絡・相談については、全体的に意識が向上している。
		6	E-2	教職員が相互理解や信頼関係を深め、協働体制で校務や教育活動などに当たっている。	13	16	4	0	0	0				
		7	E-2	管理職・教職員・学年・各分掌などで、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。	12	18	3	0	0	33		4.1		
	④安全管理	8	F-2	教職員が、生活安全・防災・防犯・情報管理などに危機管理意識を持ち、マニュアル等が整備され、適切に点検・管理を行っている。	7	22	4	0	0	33		3.8		考察・課題 ・おおむね肯定的な評価である。施設・設備の安全管理については、築10年以上が経過しているため、修繕箇所も増えてきている。定期的に安全点検を実施し、修繕がすぐに可能なものは素早く対応するよう心がけてきた。
		9	F-2	防災計画により大規模地震災害や火災発生時の緊急体制が整備され、避難訓練等防災教育が適切に実施されている。	15	17	1	0	0	33				
	⑤保健管理	10	B-1	健康診断・心身の健康相談の他健康教育指導を行い、生徒の健康管理能力の育成を図っている。	17	16	0	0	0	33		4.5		来年度へ向けて ・健康・安全については、保健だよりや保健委員会の取り組みにより、意識を高めたり注意を促すことができた。
		11	B-1	食の安全と、適切なアレルギー対応に努めるとともに、健康・安全と食教育の推進に努めている。	23	10	0	0	0	33				
					48	54	6	0	0		3.3			・それぞれの共通理解を図り、何事にも素早くスピード感を持って適切に対応をしたい。連絡・報告・相談等が重なっても、各分掌や担当ごとの連絡・調整、報告・相談等、全員がさらに意識して行っていきたい。 ・各分掌や担当で連携しながら、「明日は我が身」「お互いさまの精神」で協働的にチームとして仕事をしていきたい。
					28	66	8	0	0		3.1			・健康・安全については、保健だよりや保健委員会の取り組みにより、意識を高めたり注意を促すことができた。 ・食育に関する職員・保護者の評価は高い。給食時には、ランチルーム給食での指導や、毎日の給食時の放送が有効であった。
					60	51	2	0	0		3.5		57	48
				68	48	0	0	0		3.6		11	4	
				92	30	0	0	0		3.7			46	5

項目	No.	GD	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	参加人数	4段階 評定	5段階 評定	生徒	保護者	考察と来年度へ向けて	
2 学校経営に関すること	⑥ 特別支援教育	12	D-3	教職員の共通理解のもとで特別支援教育の体制が整えられ、計画的、効果的な指導を行っている。	21	12	0	0	0	33		4.6		考察・課題 ・特別支援教育については、昨年度より高い評価になった。支援員の先生方が増え、より多くの職員が関わり手厚い支援や授業を実施することができた。専門機関との連携については、実質的に昨年度より関わっていただかなければならないことが少なかった。今後も必要に応じて、積極的に専門機関との連携を図っていきたい。 ・校内研究については、道徳の教科化に伴い、ICTを活用した道徳の授業と評価を中心に研究を行い、初任研とも関連づけながら充実した研究にすることができた。	
				84	36	0	0	0	3.7						
	13	D-3	専門機関などとの連携を図り、特性や障害に応じた指導計画の作成や適切な指導を行っている。	14	16	2	0	0	32		4.2		来年度へ向けて ・来年度は、特別支援学級の生徒が4名減の7名になる予定だが、新1年生の学級減に伴い職員数が減少する。担当ばかりでなく、職員全体でより情報を共有し、個別の支援について考えていきたい。普通学級での支援を必要とする生徒への指導についても同様なので、校内委員会をより充実させるとともに、職員会議等で全体に周知させる工夫をしていきたい。 ・校内研については、来年度市教研での公開授業を予定しているため、限られた回数の中でより実質的な研究を進めたい。研究部会での事前検討を行い、整理した内容を提案することにより、全員が参加意識を持ち、課題を共有化、焦点化の中で継続した取り組みを行いたい。		
56	48	4	0	0	3.4										
⑦ 研修	14	A	本校の教育課題や生徒の実態に応じた校内研究が企画され、意欲的、積極的に取り組んでいる。	21	12	0	0	0	33		4.6				
				84	36	0	0	0	3.7						
3 学習指導に関すること	⑧ 学習指導	15	A-3 A-5	授業の中で、言語活動を推進し、互いが学び合う学習指導の工夫をして基礎的・基本的な内容の確実な習得に努めている。	16	17	0	0	0	33		4.3	60		考察・課題 ・基礎基本の定着のためのわかりやすい授業や、授業のねらいを明確して生徒に意識させる授業については、各教科とも意識しながら進めることができた。また、授業に言語活動やICTを積極的に取り入れたのは効果的であった。 ・生徒の自己評価は、毎日の授業のねらいを理解し、仲間と考えを伝え合う活動ができたという数値が高かった。 ・自主学習や家庭学習については、保護者の評価が低く、生徒と保護者の認識に大きな差がある。 ・文化芸術活動や読書、体験活動などは、より充実させるための検討が必要がある。
				64	51	0	0	0	3.5	5					
	⑨ 進路指導	16	A-1	授業のねらいを意識させる中で、教材教具や展開やふり返りを行い、基礎基本の定着と活用力を育てる授業方法の改善に努めている。	18	15	0	0	0	33		4.5	52		
				72	45	0	0	0	3.6	6					
17	A-1	自主学習や家庭学習の定着を図るための工夫をし、実践に努めている。	11	20	2	0	0	33		4.1	60	20		来年度に向けて ・授業改善については、職員の負担軽減も意識しながら、校内研や一人一実践、教職員評価の教科目標等と関連させて焦点化する中で、より一層進めていきたい。 ・生徒は、毎日の授業に真面目に取り組んでいる。自主学習や家庭学習の取り組みについては、保護者や生徒の認識の差を考慮しながら、自主学習や家庭学習への取り組み方の指導など、工夫と改善を進めていきたい。 ・文化芸術活動や読書、体験活動等はその意義をもう一度再確認し、時間の確保を含めて検討していきたい。	
			44	60	4	0	0	3.3	11						41
18	C	文化芸術活動や読書活動また、様々な体験活動を通して、豊かな感性を育てている。	16	12	5	0	0	33		4.2					
			64	36	10	0	0	3.4							
4 生徒指導に関すること	⑩ 生徒指導	19	D-3	生徒指導目標が設定され、生徒指導(いじめ・問題行動・不登校)の組織、分担などの迅速かつ実効的な生徒指導体制が整備されている。	16	13	4	0	0	33		4.2			考察・課題 ・生徒指導についてはおおむね高い評価であるが、職員の連携した迅速な指導と、生徒に「伝わる」指導という面において課題を感じている意見もあった。 ・いじめに関しては、定期的に(年5回)「いじめに関するアンケート」を実施し、情報を共有しながら全校体制で素早く対応することができた。 ・部活動については、職員・生徒とも充実していると感じており、評価が高かった。 ・生徒会活動や学級活動、学校行事を通しての自治的な集団づくりに関しては、生徒・保護者の評価は高い。しかし、教師主導にならないよう、生徒の発想を大切にしながら生徒の自覚と自立を育成していきたい。 ・道徳に関しては、教科化により、職員の授業への課題意識も高く、評価数値も大きく上がった。
				64	39	8	0	0	3.4						
		20	B-3	部活動の基本方針を基に、限られた時間の中で効果が上がるよう、部活動指導の充実に努めている。	18	14	1	0	0	33		4.5	75		
					72	42	2	0	0	3.6	3				
		21	C-1	生徒会活動や特別活動等を通して、異学年交流などを取り入れながら生徒の自主性・主体性を育成し、自治的な望ましい集団活動の充実を図っている。	17	14	1	0	1	33		4.3	60	53	
68	42				2	0	0	3.5	7	5					
22	E-1	生徒一人一人の特性を理解し、生徒に伝わる適切な指導・支援を行うことにより、生徒の自覚と自立を育成している。	12	19	2	0	0	33		4.2				来年度に向けて ・生徒の生活態度が落ち着いており、良い伝統が築かれている時だからこそ、様々なことへの迅速な対応と、生徒に「伝わる」指導を全職員が一体となって進めていきたい。 ・生徒会活動の取り組みに関しては、生徒の発想を大切にしながら、きちんと評価し他の活動にもつなげていきたい。 ・道徳については、学年道徳担当を中心に資料の準備なども含め、組織的、計画的に取り組む中で、授業改善や評価についても研究を継続していきたい。	
			48	57	4	0	0	3.4							
23	D-2	道徳・特別活動などで、ICTを積極的に活用し、聴きあい伝え合う人間関係づくりを進めることにより、しなやかな心の育成に取り組んでいる。	20	12	1	0	0	33		4.5					
			80	36	2	0	0	3.6							

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	参加人数	4段階 評定	5段階 評定	生徒	保護者	考察と来年度へ向けて
5 保護者・地域社会との連携に関すること	⑪ 保護者地域との連携	24 E-3	22	11	0	0	0	33		4.6	62	48	<p>考察・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者からの悩みや進路などの相談については、全体的に丁寧に対応することができた。しかし、生徒より保護者の評価が低いことは真摯に受け止め、改善していきたい。 学校からの情報発信については、HPのブログや学校だより、学年だより・学級通信など情報発信を積極的に行うことができたため、生徒や保護者の評価は高い。 地域の教育資源の活用については、年間の活動計画を再確認しながら検討する必要がある。 小中連携については、今年度新たに、現小6児童(北西小・甘利小)を合唱祭に招待したり、小学校での校長講話を早め(12月)に実施することで、小6児童の入学準備への取り組みを促すことができた。 <p>来年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間の確保を工夫し、二者懇談等生徒と話をする時間を設定したり、生徒の様子を観察しながら声掛け等をこまめに行う必要がある。また、必要に応じて、家庭への電話連絡や家庭訪問をするなど、生徒や保護者の気持ちに寄り添いながら、丁寧な対応を行っていききたい。 HPやたよりに関しては、継続して積極的に情報発信を行っていききたい。たよりは、学年や学級によってあまり差が出ないように注意していきたい。 地域との連携は、授業参観等、今行っている活動を工夫改善する中でつながりを強めていく方向で進めたい 小中連携は、接続を意識しながら、中学校生活への期待が高まるような連携を継続していきたい。
			88	33	0	0	0		3.7		7	8	
		25 F-5	22	11	0	0	0	33		4.6	60	63	
			88	33	0	0	0		3.7		12	5	
26 F-1	9	14	10	0	0	33		3.7	37	9			
	36	42	20	0	0		3						
27 F-4	11	18	4	0	0	33		4.1	3.3				
	44	54	8	0	0								
6 施設・設備に関すること	⑫ 施設・設備	28	21	11	1	0	0	33		4.6			<p>考察・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> おおむね高い評価になっている。しかし、新校舎になってから10年以上経過しており、故障や修繕が必要などところが増えている。 数年続けて、地元企業より電子黒板等を寄付していただき、ITC環境が大幅に整備された。 <p>来年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に、施設等の使用に関する指導、破損したときの指導を徹底し、大切に使用していきたい。 ICT環境が充実してきているため、積極的に活用して効果を上げていきたい。
			84	33	2	0	0		3.7				
		29	17	15	1	0	0	33		4.3			
			68	45	2	0	0		3.5				
7 学校の特色に関すること	⑬ 学校の特色	30 C	15	18	0	0	0	33		4.3	53	51	<p>考察・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師・生徒・保護者ともに「生徒は充実した楽しい学校生活を送っている」と感じている。半面、不登校の生徒や目標を持ってない生徒もいるので、その生徒に対しては細心の注意を払って対応していきたい。
	60	54	0	0	0		3.5	8	9				